

平成 30 年度 毛長川流域連絡会（第七期・後期） 活動報告書

毛長川流域連絡会の概要

- 第六建設事務所では、毛長川を地域に活かした親しめる川とするため、流域の皆様や足立区、東京都が情報や意見の交換を行うことを目的として、平成 15 年に毛長川流域連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。
- 連絡会は 2 年を 1 期とし原則として年に 2 回開催しており、平成 30 年度は第七期の後期として都民委員の募集を行い、委員 19 名[都民委員 12 名（団体委員 11 名、公募委員 1 名）、行政委員 6 名、オブザーバー 1 名]により構成されました。今年度は第 26 回として第七期 3 回目連絡会を開催し、第 27 回は現地視察を実施しました。

平成 30 年度の活動内容

第 26 回流域連絡会

- 日時：平成 30 年 1 月 22 日（月）14 時 00 分から 16 時 00 分
- 会場：足立区花畑地域学習センター 二階 第一・第二学習室
- 参加人数：16 名（都民委員 11 名、行政委員 5 名）
- 議題・議事概要

第七期の 3 回目として東京都からの報告事項をもとに、毛長川について意見交換が行われました。



1. 開 会

2. 事務局挨拶

- ・資料の確認
- ・会の進行説明
- ・委員の紹介

3. 座長挨拶

4. 議 事

「平成 29 年度 毛長川流域連絡会（第七期・前半）活動報告書」について（事務局）

〈概要〉

- ・昨年度は第七期の 1 年目ということで第 1 回目の流域連絡会を平成 30 年 1 月 22 日（月）に、同じ会場で開催した。因みに天候は雪だった。
- ・主な議題内容は、舎人橋上流部の整備をどう進めるかということと、昨年度施工していた河床掘削工事、大鷲さくら橋の工事の説明を行った。また、昨年は舎人橋より上流の整備について検討するにあたり分科会を設置した。

「毛長川の整備について（舎人橋上流部の護岸整備等）」について（事務局）

〈概要〉

- ・現在行っている毛長川整備の計画の整備水準としては、48 時間、2 日の総雨量で 217mm、1 時間の雨量で 50mm に対応できる整備を行っている。
- ・河川改修は、毛長川が埼玉県境を流れているため、埼玉県と工事協定を結んでおり、それに基づいて都と県で整備を行っている。
- ・整備の手順は、①鋼管矢板の設置、②河床掘削、③護岸のかさ上げや鋼管矢板の被覆、という流れを予定している。
- ・今回の河川事業にあたり、事業計画や事業周知の方法等について、前々回の流域連絡会や分科会で議論を行った。
- ・今年の 7 月に足立区、川口市で整備計画の説明会を行い、西日本の豪雨があったことから、早期の河川改修をお願いしたいといった声をいただいた。説明会の方の開催に伴い、事業化に向けて手続きを進めていく。
- ・工事に入るのは、来春の桜が終わった時期で、その前に再度地元説明会を行う予定である。

〈質疑・意見〉

（都民委員） 下水道の整備について東京都足立区は全部終わっているのか。

（座長） 足立区は 100%になっている。

（都民委員） 毛長川流域の埼玉県（川口市や草加市）の整備率はどうなのか。

（足立区・埼玉県） 持ち帰り次回の連絡会で回答する。

「毛長川河床掘削工事（その 16）」について（事務局）

〈概要〉

- ・河床掘削工事の施工箇所は今年 6 月に終了した前回工事に引き続き、その上流約 240m、舎人二ツ橋の手前まで施工予定である。川の上にパイプを引き最下流の綾瀬川の合流地点の鷲宮橋にプラントヤードを設け、圧送した泥水を土と水に分けて処理をする方法を引き続き行っている。
- ・現在、プラントヤードの仮囲いを行い、排砂管のパイプを鷲宮橋から水神橋の辺りまでの約 2 km に設置している。1 月の下旬までパイプを設置し、その後掘削に入っていき、翌年の 5 月中には完成予定である。

「新花畑橋（仮称）の整備状況」について（事務局）

〈概要〉

- ・新花畑橋の架橋位置は鷲宮橋と花畑大橋の中間位置にあたる。橋の名称は地域住民や区内の学校生徒から 500 通以上の公募作品があり、橋の名前選考会で「大鷲さくら橋」に決定した。
- ・現在の整備状況は、橋梁本体の整備が完了し、取り付け道路の工事を実施している。

- ・今後、足立区の上流側の護岸工事後、新設橋梁の上流側の歩道を暫定開放、さくら橋を撤去、さくら橋があった部分の護岸復旧工事、という流れを予定している。
- ・平成31年度内の橋の全面開放を目指している。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 新花畑橋と大鷲さくら橋とあるがイメージ図の橋は何の橋なのか？

(事務局) 今まで新花畑橋と呼んでいた橋が大鷲さくら橋となるのでイメージ図は大鷲さくら橋である。

(都民委員) 承知した。

「新花畑橋（仮称）護岸工事及び人道橋撤去工事」について（事務局）

〈概要〉

- ・工事期間は、今年の10月中旬から平成31年（2019年）の7月5日までで、昼間の施工を予定している。先に上流側の右岸側の護岸を整備し、その後にさくら橋の撤去となる。
- ・新設した橋に仮設の歩行者の通路を設置し、さくら橋を撤去した後に新設の橋の歩道を渡れるように整備する。
- ・2月下旬辺りを目途に歩行者が新しい橋を渡れるようにしたい。

「平成29年度 河川魚類調査委託 報告書（概要版）」について説明（足立区環境部）

〈概要〉

- ・平成29年の7月から10月に荒川、綾瀬川、毛長川、圀川、隅田川、花畑川、中川の7河川の9地点で魚類調査をした。魚類の捕獲等は、投網、たも網、定置網で行った。調査の結果、7目13科31種類の魚類を確認した。その中の8種類の魚類は、特に重要な種類の魚類となっている。魚の種類も魚の数も7河川の中では毛長川が一番多かったという結果になった。
- ・毛長川は、河川の両側に自然堤防があり、比較的魚類の生活環境に適しているため、毛長川の数が多いと推察される。
- ・特定外来生物、外国から入った種が日本の河川に繁殖し、日本の在来種にとっていい影響を与えない生物は、5種類を確認した。今年度の調査のポイントと傾向は、温暖化に伴い暖かい水を好むウロハゼやカワアナゴが確認をされて、地球温暖化の指標になりうる魚のため、今後注目して観測を続けていかなければと思っている。
- ・足立区は、様々な河川が存在しているが、足立区の河川の特徴は、川は海に繋がり海との連続性が高いが、足立区の個々の河川との連携が比較的低いということもあり、今後の課題として、調査河川の事例にもあったが出来れば足立区の川同士の連続性を持たして魚類の生息や産卵環境をよくする仕掛け、例えば池や湿地等のビオトープや人工的な湾と干潟を設けるなどの工夫が必要なのではないかとまとめた。
- ・各委員には「観賞魚を飼育しきれずに川に流すことは、日本固有の在来種の魚類に悪影響を与え、非常に環境によくない」ことを近隣住民に話してほしい。

「毛長川の水質（BOD、DO）の年平均値の経年変化」について（足立区環境部）

〈概要〉

- ・毛長川の水質の変化の状況を評価する指標として、生物化学的酸素要求量（BOD）と溶存酸素量（DO）の二つの指標がある。BODは、水の中の有機物などの汚れを微生物が分解するときに消費された酸素の量であり、値が小さいほど汚れが少ないといえる。DOは、水中に溶けている酸素の量であり、値が大きいほど良好な状態といえる。

- ・毛長川の数値では、BOD は右肩下がりになっていて、DO は逆に右肩上がりで、若干年によって、データの増減はあるが毛長川の水質は概ね良くなっている傾向がある。

〈質疑・意見〉

- (都民委員) 舎人橋上流部の整備において鋼管打設による護岸整備を行うと説明があったが、ヨシ等を入れて水生生物が住みやすくする等の計画はないのか。
- (事務局) 見た目の修景までは行うが、ヨシ等を植える計画は今のところない。
- (都民委員) 足立清掃工場の廃液は毛長川に流しているのか。
- (足立区) 所管している部署に確認する。

「毛長川周辺の水防について」について (事務局)

〈概要〉

- ・平成 30 年は、概ね平年並みの降水量になっている。平成 30 年の東京都水防本部の立ち上げ回数は、これまでに 12 回で平年並みとなっていた。ゲリラ豪雨や集中豪雨台風に起因するものが多い。本年、東京都水防本部を最後に立ち上げたのが 9 月 30 日から 10 月 1 日で、台風 24 号が要因であった。
- ・平成 30 年における足立区の水防状況は、1 月 1 日から本日まで警報回数が 2 回で、非常に少ない状況だった。
- ・平成 30 年の降水量で特筆すべきは、3 月の降水量で一番上の表で 220mm とあるが、3 月の降水量としては観測史上 2 位の多い降水量であった。3 月 9 日は、警報回数の 1 回に数えられている程大雨が降ったが、1 時間最大雨量は 18mm、24 時間雨量が 84mm を記録し、渇水期としては非常に珍しい集中豪雨だった。また、今回毛長川で、平成 30 年で最も水位が上昇したのは、3 月 9 日となっている。毛長橋における水位は、最高で天端下がり 163cm の位置まで水位が上昇した。
- ・今年気象情報で、台風の発生が非常に多いという報道があったが、現時点で年間 29 個の台風の発生が確認されている。台風の発生が 30 個を超えたのは、前回は 2013 年だが、それ以前となると、ここ 20 年で 30 個を超えた年がないため、非常に台風の発生が多い年だった。中でも、8 月に 9 つの台風が発生した。

〈質疑・意見〉

- (都民委員) 毛長川の氾濫水量の警報はどんな警報が流れるのか。
- (足立区) 水防対策本部で必要に応じて何らかの手段で避難を促すような情報伝達を行っている。数年前中川で水位が上昇した際に防災無線で呼びかけたが、十分な避難ができなかったため区では災害時にどうするか検討をしている。
- (都民委員) 住んでいる建物が避難場所になっているようなので、夜に寝ているような場合は、どうすればよいか教えてほしい。
- (足立区) 担当部署に確認をとる。

その他 (事務局)

〈概要〉

- ・毛長川流域連絡会は今回より年 2 回、1 回目が会議形式で行い、2 回目は、現場視察で計画している本年度は、来年の 2 月 8 日に江東内部河川の現場視察を考えている。今までの現場視察は、水害対策的な視点での整備している現場が多かったが、今回は環境整備されている現場を視察することで、北十間川、旧中川、横十間川の環境整備がなされているところを案内する予定である。具体的には、マイクロバスを用意し、視察予定である。集合場所について確定次第、改めて案内をする。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 上流の工事で発生土砂が下流に流れるということはないのか。

(座長) 基本的にはバキュームで吸っているため流れてくることは無いように行っている。

5. 閉 会

第 27 回流域連絡会（現場視察）

- 日時：平成 31 年 2 月 8 日（金）13 時 30 分～16 時 30 分
- 参加人数：都民委員 6 名、行政委員 4 名、オブザーバー 1 名
- 行程：「竹の塚学習センター」前～旧中川 川の駅～旧中川～小名木川～「竹の塚学習センター」
※マイクロバスで移動

1. 開 会

2. 事務局挨拶

- ・資料の確認
- ・行程説明

3. 座長挨拶

4. 報告事項

- ・前回流域連絡会の質問に対する報告（往路車中にて）
 - （質問 1）毛長川流域の下水道整備率について。
 - （回答 1）右岸の足立区側は 100%。左岸の草加市は毛長川周辺に一部未整備箇所がある程度で下水道は、ほぼ整備済みといえる。
 - （質問 2）足立清掃工場の排水を毛長川に放流しているのか。
 - （回答 2）排水は、工場内の浄化装置で処理をして下水に流している。
 - （質問 3）毛長川の氾濫等の危険時の情報について
 - （回答 3）基本的に毛長川の水位は六建と足立区で監視しており、危険と判断したときは、足立区の防災無線で呼びかけを行っている。足立区では「安心電話」の設定ができ、設定すると地域ごとの水位情報や避難情報が電話の自動音声で得られるサービスが利用できる。
 - （質問 4）住宅供給公社（J K K）や U R が地域と緊急時の避難について結んでいる協定等について。
 - （回答 4）協定等は、緊急時に逃げ遅れた方が J K K や U R の共用部の階段、踊り場を利用できるということであり、水位が下がるなど、危険性が低くなれば正式な避難場所に移動してもらうので、お住いの方は、特に対応するものではない。

5. 現場視察

旧中川 川の駅周辺を視察（説明：江東治水事務所）

〈概要〉

- ・旧中川、小名木川などの江東内部河川は、江東デルタと呼ばれる場所にあり、地盤が低くなっている。周囲の河川と水門等で仕切って、人工的にポンプで排水し、水位を A. P. -1m に維持している。また、従来の高い堤防を撤去し、河川沿いの修景整備や水陸両用バスや足湯等が利用できる「旧中川 川の駅」を開設した結果、だんだんと人が集まり賑わいが生まれるようになった。



水陸両用車の川へ出入りするためのスロープ



修景整備された旧中川

〈質疑・意見〉

- (都民委員) 旧中川は流れがないのか。
- (江東治水) 基本的には、ポンプで排水しているため、少しは流れがある。
- (都民委員) 旧中川の水位は、荒川より低いのか。
- (江東治水) 荒川との水位差は、一番少ない時でも1m、大きい時は3m強ある。

小名木川を視察（説明：江東治水事務所）

〈概要〉

- ・小名木川は、江戸時代に行徳で作った塩を江戸まで運ぶ目的で作られ、「塩の道」とも呼ばれていた。小名木川も旧中川と同じように川の水位を下げ、防潮堤をカットし、「塩の道」に相応しい江戸情緒あふれる石積み風護岸、擬木の柵など、延長3km位を「塩の道再整備」という形で、統一した意匠で整備している。



石積み風護岸や擬木柵等で水辺の道が整備



江戸情緒を醸し出す灯籠なども配置

〈質疑・意見〉

- (都民委員) この川の整備はどこが担当しているのか。
- (江東治水) 江東治水事務所が江東内部河川の整備を担当している。
- (都民委員) 以前は、荒川の堤防の心配より、0m地帯が心配だったが、今では荒川の方が心配になってきたのか。
- (江東治水) このあたりの河川はポンプ排水により水位をコントロールしているので、心配はない。
- (都民委員) 荒川上流の秩父で大雨が降った時は、足立区の方で心配しているが。
- (江東治水) 荒川の堤防が決壊するとこちらにも水が流れ込んでくることになるが、そのようなことが起こらないように国で荒川のスーパー堤防等の整備も進めているようだ。
- (都民委員) 治水のために荒川の西遷など昔の人の努力は立派だった。
- (都民委員) なぜ、旧中川の左岸に土嚢が置いてあるのか。

(江東治水) あの土嚢は治水のためにおいてあるのではなく、別の工事で使用する土嚢を仮置きしているため。

6. 閉 会

- ・復路の車中にて、事務局が本日の流域連絡会終了のあいさつと第八期の案内を行った。